

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4丁目945番地		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400465-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外にある花壇では四季さまざまな花が咲きみんなで観賞したり一つの楽しみでもあります一人一人の時間を大切に頂き、ゆっくりと安心して過ごして頂けるよう、明るく清潔な環境を保つことに力を入れております</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者が毎日を安心して暮らせるよう支援に取り組み、サービスの質の向上に努めている。代表が中心となって作成した介護技術学習用のDVDや、小冊子「基本のき」を活用した教育、内外の研修を通して職員の知識や介護技術の向上、維持を図っている。代表、管理者、職員のコミュニケーションは良好であり、それぞれの意見やアイデアが運営に活かされている。同法人の事業所と共同で、学習会や課題解決に取り組む体制が整えられており、職員も介護の仕事にやりがいを持って安心して働くことができている。常に法人全体で一丸となって運営に取り組み、利用者への良質な支援提供に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼に復唱し忘れないようにしています。またミーティング等で話し合い実践につなげて行けるよう心がけています	理念は、リビングへの掲示、朝礼・夕礼での復唱を行い意識の浸透に努めている。毎月開催の職員会議では、日々のケアを振り返り、理念に基づいた支援の実践につなげている。年1回認知症に関するテストを実施し、支援の質の向上と維持に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続きコロナ禍であり地域の行事も中止となっており、地域の方との交流もできていません	自治会に入会し、地域の清掃活動や行事に参加し、地域との交流を行っている。今もコロナ禍にある為、全ての行事や活動が中止となり、地域交流はできなかったが、管理者が自治会長や民生委員とコンタクトを取りながら、地域との関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等で外でお会いした地域の方と会話をしたりと交流する時もありますが外出もなかなかできていないので活かす場が減っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に続き意見交流会は中止となっておりますが、施設の様子は書面にてお知らせする形をとっています	運営推進会議は書面会議とし、報告書と共に委員の意見記述用紙を同封し、得られた意見と検討結果について再報告している。家族代表、行政、地域包括支援センター、市民代表等の会議構成メンバーの意見を事業所のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方のお世話をさせて頂いております	管理者やケアマネジャーは、市の高齢者福祉課担当者と相談や報告を行いながら、助言を得ている。電話やメールだけでなく、可能な限り窓口に向き、協力関係を継続している。生活保護受給者である利用者についても、行政と連携しながらサービスの提供に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をすることなくケアに努めさせて頂いており、今後もこの状態を保ち、取り組んでいきたいと思っております	法人主催の研修や外部研修に参加した職員は、職員会議で他職員に伝達し、共有することで支援の向上につなげている。また、毎月、代表と5事業所の主任等で身体拘束委員会を開催し、利用者への対応状況や記録方法等について話し合いながら、法人全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事柄が虐待となりうるのかをミーティング等ではなしあっております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで権利擁護に関することとお話しし理解できるように学んでいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設へ見学に来ていただき、説明やご家族様の不安や疑問に思われる事にお答えし、理解して頂ける様にしております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた時には時間を頂き意見や要望を聞き運営に反映しています(電話にてお話しさせていただく事もあります)	面会や電話の際に、家族の意見や要望を聴き、支援に反映させている。ホーム通信と共に個別に手紙を添え、利用者の日々の様子を伝えている。3カ月毎の連絡票送付時にも、家族の意見や要望を記述する用紙を同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行うミーティング内で勉強会を行ったり、ご利用者様の希望などみんなで話し合い反映しております	毎月開催の職員会議には、施設長と管理者も出席し、職員の意見や要望を聞きながら、改善すべき事は早急に対応している。また、日頃から、職員が意見を出しやすい雰囲気作りと職場環境作りに努め、職員それぞれのアイデアも取り入れながら、利用者支援に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回(夜勤者は2回)の健康診断を受けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内にてキャリアパス研修を実施。介護の基本について学びました。実践していけるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流を図ることが出来ていません。今後研修の機会が増えて来ましたら交流を深めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の希望があればケアマネとホーム管理者が病院やご自宅へ訪問しご本人様やご家族様の希望を聞き安心して入所して頂けますよう努めております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安に思われていることに対し傾聴し理解に努め安心して入所して頂けるよう良い関係作りが出来ますよう心がけております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望と必要とされている支援を、ご家族様・ケアマネ・管理者で集まったりと話し合い対応に努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感謝の気持ちを忘れずご利用者様には笑顔で安心して頂ける生活を送って頂けますよう努力しております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の生活便りを書きホームでの生活を知って頂く(写真なども添えさせて頂いています)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあり馴染みの人の出入りも減っております。むずかしい状況です	コロナ禍にあった為、事業所内での面会を制限してきたが、家族との面会は、感染予防対策をした上で、玄関先で行っている。感染状況が落ち着いた際には、家族以外の馴染みの人や、同法人事業所の利用者との交流を再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流も深められるよう職員も一緒に会話に入り楽しんでいきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様からメールを頂いたり野菜など持ってきてくださることもあります		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話しする時間が出来た時にはご利用者様の希望や困っている事はないか等お聞きし、また聞いた事をミーティングの場で話し合っております	日々の支援の中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。言葉で訴えることが難しい利用者の場合は、職員同士で情報の共有と意見交換を行い、利用者の思いを推測しながら、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時にアセスメントを行い把握に努めています。ご家族様の面会時にお話しさせて頂いたり居宅のケアマネからも情報を得ています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェック。排泄、食事、水分摂取量のチェック。状態を観察し何かあれば医師の往診や訪看受診時に相談させて頂いています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時、サービス担当者会議を行い意見を反映しています。ご家族様には電話や面会時に伺い医師にもたずねています。	介護計画は、利用者の状況や意向、家族の要望、医師等からの情報をもとに、サービス担当者会議で話し合い、作成している。家族の意見は、面会時の聴き取りや計画報告時に意見書を同封しているが、意見が書かれることはあまりない。	家族が意見書にある質問の意味を理解し、記述しやすいよう、補足の項目追加に期待したい。また、新型コロナ収束後には、家族と直接、計画について話し合う時間を作り、家族の状況、思いや要望を把握した上での計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りを見て次の日の状態を確認し伝えております。ケアプランにも活かして頂くこともあります		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートの確認し、その時のニーズに対応しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農業地でもありますのでゆっくり散歩する事ができます。クリーン作戦も今は出来ていませんが、また始めていきたいと思えます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の先生に往診をお願いし不安の無いように努めています	従前のかかりつけ医を希望する場合は、継続することができる。協力医を選択する利用者は月2回の往診と、訪問看護師の健康チェックを受けている。歯科など他科受診が必要な場合は、家族に付き添いを依頼しているが、対応が難しい場合や緊急時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在月2回(2週に1回)24時間対応の訪看に来ていただいております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族様の了承を得ております。医師、看護師から情報を頂いたり、入院中はできる限り身の回りのお世話をさせて頂いております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族様の希望を聞き病院もしくはホームで迎えるのかを十分に話し合うようにしている。主治医の支援が受けられる体制づくりをしています。	重度化や看取り時の指針を書面にて説明し、同意を得ている。利用者の状態によって、家族の意向が変わることもあり、入院を希望する場合には、そのサポートを行っている。看取りの際には、医師と訪問看護師と密な連携を行いながら、利用者と家族が穏やかに最期の時を過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置等の講習を受けております(救命対応講習など)防災訓練も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施、水害について学んだり夜間帯を想定して訓練しております	コロナ禍にあった為、避難訓練は事業所のみで行い消防署に報告をしている。訓練は地域住民の協力も得ながら進めている。事業所は平屋建てのため水害時の避難場所や誘導方法、備蓄品の管理等についても課題がある為、現在、検討している。	水害時の避難場所や誘導方法、備蓄品の管理等、検討すべき課題も多い。具体的な避難方法についても、職員全体でシミュレーションを行い、地域住民の協力も得ながら、具体的な対策を確立されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に3大介助時にはご利用者様を尊重しプライバシーを損ねないよう声掛けの仕方や対応の仕方に配慮しお手伝いさせて頂いております	常に理念の意義を踏まえ、利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。声掛けや支援方法について、日々、職員間で振り返り、利用者の自己決定やその人らしさを大切にしながら、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物へ出掛けたりご本人様が希望された時には対応させて頂いております。ホーム外での外気浴や散歩は全員の方に参加して頂ける様にしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気分や体調に配慮し一人一人のペースを大切に支援することに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により髪をカットさせて頂いております。ご利用者様が好まれる服を着用して頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理を行って頂いたり昔の料理を教える等頂いたりご利用者様から学んでおります。食事エプロン付けや机を拭いてくださる方もみえます	主食と汁物は事業所で職員が作り、副食は、同法人の調理担当事業所が行い、各事業所に配達されている。日曜日と月曜日は、ホームで全て調理し提供している。利用者のリクエストも取り入れながら、それぞれの状態に合った形態で提供し、利用者が食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量に調節したり水分補給時には声掛けをしたりと工夫しています(飲み物の工夫など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には口腔内に残留物が残らないように口腔ケアすることを徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパットを使用しておられる方も声掛けにてトイレ誘導、介助させて頂いております。パターンを把握し快適に過ごして頂けるよう配慮しております。	昼夜共、利用者の排泄パターンに合わせて、パットなどを組み合わせて、トイレでの排泄を支援している。入居して間もない利用者には、希望や状態に応じてポータブルトイレを使用しているが、徐々にトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より整腸剤や坐剤使用支持を頂いています。体操も取り入れ予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、入浴されないご利用者様には清拭や足浴をさせて頂いております	夏場は週3回、それ以外は週2回を基本に、可能な限り湯船に浸かれるよう支援している。介護度が高くなっても複数介助で支援し、利用者とコミュニケーションを図りながら、安心して気持ちよく入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれるタイミングは個々にまかせています。他の方の睡眠の妨げにならない程度に過ごさせて頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと投与しています。薬が変わった場合などの時には申し送りノートに記入し皆が把握できるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事を役割として過ごして頂けるよう支援しております(洗濯たたみ、おしぼりくばりなど)花壇でお花も育てています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は時々みんなでドライブに行き車内から花を見たりしています。室内では体操をしたり歌を歌ったりと活動しており天気が良いときには外気浴もしています	コロナ禍の今、地域行事への参加、喫茶店や買い物に行くなどの外出は中止していたが、状況を見ながら感染予防対策をした上で、ドライブに出かけている。ホームの庭にテーブルを出し、コーヒータイムを設けるなど、外気に触れる機会を作り、楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理しておられる方には買い物を頼まれたり一緒に出掛ける時もあります。基本お金は置いておりませんが足りないものがある時はご家族様にお願いしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればかけて頂きますし代わりにかけることもあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく無駄なものは置かず動きやすい場になっています。みんなで作成した作品を飾ったり季節にちなんだ飾り付けをしたりと明るい空間作りに力を入れています	職員は、利用者が季節を感じられるよう、玄関前の花壇に様々な花を植え、手入れをしている。居間には、利用者の手作り作品や行事の写真を掲示している。それぞれの状態に応じた座りやすいソファや椅子、家具の選定や配置を考慮しながら、利用者が好きな場所で過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされる方、椅子に座られる方、誰でも自由に過ごして頂いています。気軽に出てこられお話しできる共有スペース作りに努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様におまかせしています。家具の配置や壁飾りなど好みに飾って頂いています	使い慣れたベッドや家具類などを持ち込むことができ、利用者の状態と安全性に配慮しながら配置している。壁には、家族からの手紙や写真、誕生日や敬老の日を祝う職員からの色紙や写真などを飾り、利用者が穏やかに落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は続けて頂けるよう見守り程度にできるようにしています。出来た時には一緒に喜び共感するように心がけております		